



じょうの 城野遺跡公園を実現する会

会報 第4号

北九州市小倉南区城野/JR日豊本線・JR日田彦山線「城野駅」南口から徒歩3分

早いもので、本会が発足して1年が経ちました。その間会員の皆様方には、発足に当たる準備、会則の作成、会費の徴収や納入、講演会の開催、古代人を訪ねるプチ旅や出前講演への参加など、色々ご支援ご協力いただきありがとうございました。

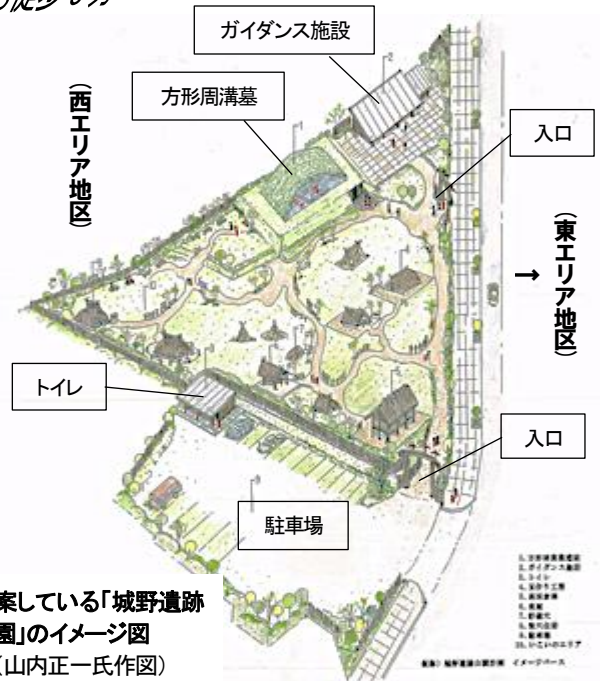
城野遺跡の現況については、東エリアの「ゆめメモート城野店」開店に続き、西エリアの工事が着工され、あろうことか3月7日に北九州市は城野遺跡の一部損壊を発表しました。本会の目的とする城野遺跡公園の実現に赤信号が灯りましたが、このままあきらめるわけにはいきません。

文化庁が主導する2020年アジア文化都市に北九州市が選定されたばかりですが、その活動を具現する格好の材料が城野遺跡の保存と整備・活用になるはずですが。

昨年12月にはJR博多シティで、歴史文化事業を行う会社組織「かたらんね」の依頼により、遺跡の発掘担当者である佐藤浩司埋蔵文化財調査室長による城野遺跡講演会が開催され、その重要性は近隣都市圏にも広がってきました。本会としてもさらに周辺地域や文化団体への周知活動を行い、大切な郷土の歴史理解につなげていきたいと思っております。

損壊を受けた方形周溝墓は二度と元には戻りませんが、北九州市にはその反省と責任を求めながら、より良い遺跡公園実現のため、引き続き活動してまいります。

(会長 万田 守)



提案している「城野遺跡公園」のイメージ図 (山内正一氏作図)

緊急報告！

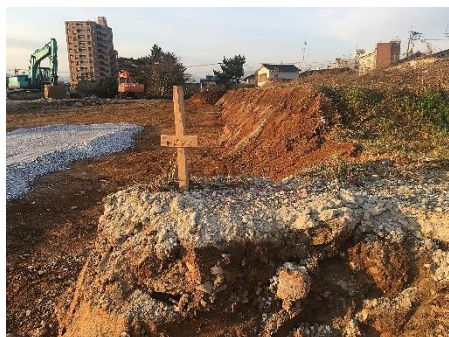
◆2/14西エリアの造成工事開始！

3/7に北九州市・文化企画課が正式発表！

市計画「遺跡広場」1.5メートル掘削！九州最大級の方形周溝墓一部損壊！

◆3/8に「実現する会」が北橋市長に「抗議文」と「質問状」を提出！

◆3/11に「日本考古学協会」が北橋市長と担当局に「抗議文」を送付！



↑写真右側のこんもりと高くなったところが九州最大級の方形周溝墓の部分です。厳重に保護管理されるべき貴重な文化財がどうしてこんなことに…。

※ **緊急報告！** については同封の「号外」をお読みください。

● 12月2日に9回目の講演会「城野遺跡群重留遺跡の銅矛祭祀とその意義」を開催。城野遺跡現地見学会も！

城野遺跡の重要性と保存の必要性を訴える講演会を12月2日に小倉南区生涯学習センターで開催しました。9回目となる今回は「城野遺跡群重留遺跡の銅矛祭祀とその意義」と題して、愛媛大学准教授吉田広先生に熱弁をふるっていただきました。

最初に恒例になりました城野遺跡の発掘記録ビデオ「朱塗る石棺の謎」が上映され、真っ赤な朱の迫力に圧倒されました。

そしていよいよ吉田先生の講演です。先生は弥生時代の青銅製武器研究の第一人者で、城野遺跡の発掘調査や保存運動にも当初から深く関わっていただき、当会の顧問も快くお引き受けいただいている若手研究者です。竪穴住居跡に広形銅矛を埋めた日本唯一の事例として、すぐとなりの丘陵で見つかった重留遺跡に主眼をおきながらも、城野遺跡や重住遺跡を含めて城野遺跡群としてこの地域の弥生社会、また集落祭祀のあり方を考えていくことが重要だとされました。スライドを使い大変わかりやすく興味深いお話しに、参加者も満足げでした。会場があまりに広く、100名足らずの参加者にはゆったりすぎましたが、ゆっくりとじっくりと吉田先生のお話を聴くことができました。

講演会のあとは天気が心配されましたが、重留遺跡、城野遺跡の見つかった現地まで吉田先生に案内していただき、解説を聞きながら、当時の人々の様子を想像できましたし、質問もたくさん。

吉田先生、この地域の遺跡の大切さを教えていただき、本当にありがとうございました。

本会では今年も講演会や学習会などを重ねて、城野遺跡の魅力を発信し続けたいと考えています。



吉田准教授の講演を熱心に聞く参加者



雨中の重留遺跡を見学する准教授と参加者

● 4月14日(日)古代人に出会うツアー第3弾「小倉城全部みてやろ〜！」を開催します

これまで、北九州市東部(豊前国)の古代遺跡を巡ってきましたが、ふるさとを元気にし、親しみと愛着を深めるためには中世～近世の北九州を学ぶ視点も必要です。今回は時代を一気に下って、最近注目を浴びている小倉城に焦点を当て、「小倉城全部みてやろ〜！」を企画いたしました。小倉城築城の歴史とその構造や最近の発掘と石垣調査成果の話を中心に専門家に聞きながら城内の石垣・堀・門などを周遊し、戦国～江戸時代の小倉を実感します。今回は「お城のある風景を大切に」もテーマに、天守閣だけではなく小倉城の新しい魅力を発見しながら楽しんでいただけるものと期待しています。

「小倉城リニューアル」と称する城内の変わり様にも注視です。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

【開催日時】4月14日(日)13時集合 【集合場所】北九州市役所 本庁北口正面

【講師】佐藤浩司氏(日本考古学協会 埋蔵文化財保護対策委員会幹事)

【参加費】無料 ※天守閣登閣は希望者のみ(入場料は各自負担) ※小雨決行です！



小倉城天守閣の石落とし

★参加希望の方は、資料の準備等ありますので、4月12日(金)までにお申し込みください。詳しくは同封の「案内チラシ」をご覧ください。

● 11/21 陳情署名(9回目)が教育文化委員会で審査され、継続審議へ

昨年11月21日(水)の常任委員会で陳情「城野遺跡公園の整備について」の審査が行われ、「継続審議」となりました。否決はされないものの、2度と審議されることもありません。①西エリアの遺跡広場に、ガイダンス施設、トイレ、駐車場、木陰やベンチの設置、②広場整備は議会答弁の通り地元住民の意見を聞くべき、③隠されたままの土地取得しなかった理由の公表を求める1038筆の署名を届けました。事務局長が口頭陳情し、各委員(議員)に北橋市長の城野遺跡に関する文化財行政のチェック機能を期待しましたが、発言したのは共産党の藤元、藤沢議員のみでした。

● 12/21 北橋市長に「城野遺跡の保存活用に関する公開質問状」を提出 2/18 市長の回答等について文化企画課と懇談

市長選挙(1/27 投票)に向けて、12月21日に北橋市長に「公開質問状」を提出し、1月10日付で回答がありました(全文は会のホームページで公開)。

今回、文化企画課の担当者が変わり、初めての文書回答に誠意を感じましたが、その内容はこれまでの繰り返しで、質問を無視したり、はぐらかすことに終始していました。

2/18の文化企画課との懇談では、①1/10付市長の回答全般、②市計画の「遺跡広場」、③西エリアの開発、④埋蔵文化財センターの八幡市民会館への移転について話し合いました。事前に届けていた質問に沿って2時間以上話し合いましたが、改めて、開発優先の北橋市政のもと文化企画課が市の貴重な埋蔵文化財の保存活用の責任を果たせていないことがわかりました。

市計画の「遺跡広場」が1.5m掘削され、方形周溝墓まで一部損壊したのは、開発業者だけではなく、市の杜撰な埋蔵文化財の保護行政にも重大な責任があります。市の文化財行政を見直すためにも、遺跡破壊の責任をあいまいにするわけにはいきません。

● 『遺跡を守り、語り継ぐ』ということ……顧問の先生方(西谷先生・近藤先生)の近況

会報第2号では、当会顧問の近藤英夫先生(日本考古学協会副会長、東海大学名誉教授)にお会いした際のインタビュー記事を掲載しましたが、紙幅の都合で途中になっていました。先生の遺跡への熱い思いを込めたお仕事をもうひとつご紹介します。

近藤先生は相模原市にある津久井湖城山公園の保存・整備に関われ、中世の城跡が住民のすぐ近くの里山に存在することから、その景観を保全し、後世に受け継ぐために様々な仕掛けを用意されました。「津久井城整備のための暗黙コード ～公園事業者の経験則～」と銘打ち、「地形の改変は避ける」「まがいものを作らない」「地元の理解と協力、信頼を得る」「適正な保存と活用を推進する」などを地元住民、専門家、行政、大学と情報共有し、文化財が地域の紐帯になることを学ばれたそうです。

遺跡調査による「土地の記憶」の把握は、今後そこに生活してゆく人々に豊かな情報を提供し、地域を支える人材や財産の育成につながっていくということです。遺跡を守り、語り継ぐノウハウはこうした地道な作業を一步一步進めていくことだと感じました。

つぎに、西谷正先生ですが、先生は昨年文化庁から50周年記念表彰を受けられ、ご自身の著書「地域の考古学 私の考古学講義」の出版、そして何よりも傘寿を迎えられ、今年もますますご活躍のことと思います。福岡県内外で活動中の「東アジアの古代史を楽しむ会」の名誉会員でもあられる先生に、会報新春号の取材で体調管理について伺ったところ、「還暦でリセットされ、傘寿で二度目の成人式を迎え、7年先の予定まで組み込んで、お酒も少し強くなったみたい」とおっしゃられたそうです。また、嬉しいお言葉として、「この会も城野遺跡公園を実現する会と連携し、支援や協力しては？」と発言されました。私たちにとってどんなに心強いエールでしょうか。西谷先生、ありがとうございます。そしていつまでもお元気で「城野遺跡公園を実現する会」にご指導・ご助言いただければと思います。

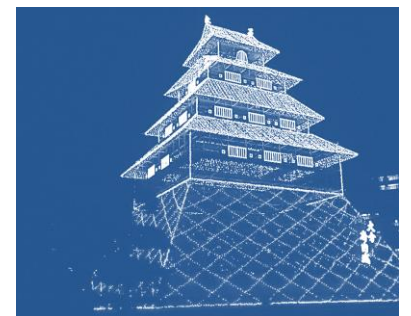
● ホットな話題……「大分市 府内城の仮想天守 夜間ライトアップ」

大分市では、戦国時代末期に築かれた府内城仮想天守の夜間ライトアップが先日まで行われ、幻想的な雰囲気をたくさんの市民や観光客が楽しみました。

豊後府内城は江戸中期に火災で天守閣が消失し、その後は小倉城のように再建されていませんが、石垣の天守台だけでも当時の威容を想像できますし、他にも櫓や大手門、廊下橋などが復元され、県や市の指定文化財にもなっています。

小倉城は、昭和34年にコンクリート造りで復元された模擬天守ですが、天守閣の形は本来のものとは違い、見映えを重視する三角破風が取り付けられました。いわばニセモノの天守閣ですから、市の文化財指定すら受けておらず、日本の名城百選にもなっていません。

このようなライトアップが可能なら、せめて小倉城を夜間だけでも本来の「層塔型」とよばれるものに変身させてはどうでしょうか。それにより、夜の賑わいがつくられ、観光客の北九州市に宿泊する機会も増えると思うのですが……。



LEDで浮かび上がる大分・府内城

<それなんのこと? 考古学用語解説コーナー>

玉作り工房(たまづくりこうぼう)

弥生時代には、北陸地方や山陰地方を中心に石を使った玉作りが盛んに行われた。九州では、糸島市潤地頭給遺跡で大規模な玉作り工房(玉を製作する建物のこと)が見つかったが、その数年後北九州市城野遺跡でも、集落の中で水晶と碧玉という、最も美しい石材による玉作りを2軒の竪穴住居跡の中で行っていたことがわかった。これは九州2例目の画期的発見となった。時は邪馬台国の女王卑弥呼が生きていた頃。城野遺跡の凄さは方形周溝墓だけではなく、この玉作りも重要な要素の一つである。

城野遺跡の各種玉類 →



発行日 2019年3月15日
発行者 城野遺跡公園を実現する会
編集担当 高橋徹雄
連絡先 永田由起(事務局長)
TEL 090-3079-6503 FAX 093-951-3524
振替口座 ゆうちょ銀行 01780-0-147174
「城野遺跡公園を実現する会」

第1回定期総会&講演会 開催のご案内

日時 5月26日(日)13:00~

場所 未定 ぜひご参加ください!

会場等の詳細は決まり次第、「案内状」をお送りいたしますので、予定しておいてください。城野遺跡の朱塗り石棺や文化財行政に詳しい講師を予定。

陳情署名にご協力ください

埋蔵文化財軽視の「埋蔵文化財センターの八幡市民会館への移転反対」の署名です。10回目です!